

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成26年8月8日
【四半期会計期間】	第63期第1四半期（自平成26年4月1日至平成26年6月30日）
【会社名】	株式会社マキヤ
【英訳名】	MAKIYA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川原崎康雄
【本店の所在の場所】	静岡県沼津市三枚橋字竹の岬709番地の1 同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記で行っております。 静岡県富士市大淵2373番地
【電話番号】	（代表）0545-36-1000
【事務連絡者氏名】	取締役財務部長 矢部利久
【最寄りの連絡場所】	静岡県富士市大淵2373番地
【電話番号】	（代表）0545-36-1000
【事務連絡者氏名】	取締役財務部長 矢部利久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第62期 第1四半期 連結累計期間	第63期 第1四半期 連結累計期間	第62期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	13,559,831	13,515,506	56,396,976
経常利益 (千円)	197,345	156,005	969,120
四半期(当期)純利益 (千円)	111,047	94,075	468,644
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	177,702	148,538	532,821
純資産額 (千円)	12,830,131	13,172,313	13,083,234
総資産額 (千円)	27,810,736	27,882,182	27,972,556
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	11.12	9.42	46.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.13	47.24	46.77

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策や金融対策の効果により、企業収益や雇用環境は穏やかな回復傾向はみられるものの、原材料価格の上昇などの不安材料も抱えており、依然として不透明な状況が続いております。

当小売業界におきましては、「競合店の出店」や「価格競争の激化」に加えて消費税増税や電力料金等のエネルギーコストの値上げによる物価上昇等、依然として厳しい経営環境で推移しております。

このような状況の中、当社グループは、「品揃え」（きめ細やかな品揃え・品質・味・鮮度）、「価格」（エブリディロープライスのお手頃価格）、「売り方」（品切れ撲滅、買い易い陳列）、「サービス」（明るい挨拶・親切対応）、「クリンリネス」（清潔・メンテナンス）の徹底強化を図っております。

当第1四半期連結累計期間における店舗政策といたしましては、新業態として「ポテト」と「業務スーパー」を融合させた「マミー業務スーパー」を2店舗開店いたしました。

なお、新規出店等の状況は、以下のとおりであります。

区 分	店 舗 名	年 月	備 考
開 店	マミー厚原店（富士市）	平成26年4月	ポテト厚原店を業態変更
開 店	エスポットバラエティ ひばりが丘店（富士宮市）	平成26年5月	ポテトひばりが丘店を業態変更
開 店	マミー里吉店（甲府市）	平成26年6月	新規開店
閉 店	ポテト松岡店（富士市）	平成26年6月	店舗建替え工事

売上高

当第1四半期連結累計期間の売上高は、135億15百万円（前年同期比0.3%減）となりました。「エスポットのフード（食品）部門」「業務スーパー」「生鮮&業務スーパー」は引き続き堅調に推移し、前年同期を上回る結果となりました。「エスポットのノンフード（非食品）部門」は、消費税増税の駆け込み需要の反動減により、前年同期を下回る結果となりました。「ポテト」につきましては、業態変更のために閉店したポテト三園店（平成25年6月下旬）、ポテト厚原店（平成25年11月下旬）、ポテトひばりが丘店（平成26年5月中旬）や店舗建替えのため休業したポテト松岡店（平成26年6月中旬）の売上減少分があったこと等により、前年同期を下回る結果となりました。

営業利益及び経常利益

当第1四半期連結累計期間の営業利益は、89百万円（前年同期比30.9%減）、経常利益は、1億56百万円（前年同期比20.9%減）となりました。

これは、消費税増税の駆け込み需要の反動による売上減少や電気料金の値上げによる水道光熱費の増加等によるものであります。

四半期純利益

当第1四半期連結累計期間の四半期純利益は、94百万円（前年同期比15.3%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債、純資産の状況

(資 産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は278億82百万円となり、前連結会計年度末と比較して90百万円減少いたしました。

流動資産は、65億98百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億77百万円減少いたしました。これは、3月の消費税増税の駆け込み需要により増加したクレジット売上未収金の回収により売掛金が1億35百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、212億83百万円となり、前連結会計年度末と比較して87百万円増加いたしました。これは、システム関連投資により無形固定資産が1億円増加したこと等によるものであります。

(負 債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は147億9百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億79百万円減少いたしました。

流動負債は、100億14百万円となり、前連結会計年度末と比較して1億27百万円増加いたしました。これは、買掛金が4億17百万円減少したものの、短期借入金が6億45百万円増加したこと等によるものであります。

固定負債は、46億95百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億7百万円減少いたしました。これは、長期借入金が2億82百万円減少したこと等によるものであります。

(純資産)

純資産は、131億72百万円となり、前連結会計年度末と比較して89百万円増加いたしました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	35,128,000
計	35,128,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月8日)	上場金融商品取引所名又 は登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	10,540,200	10,540,200	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式。 単元株式数は100株でありま す。
計	10,540,200	10,540,200	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日	-	10,540,200	-	1,198,310	-	1,076,340

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 556,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,981,900	99,819	-
単元未満株式	普通株式 1,700	-	-
発行済株式総数	10,540,200	-	-
総株主の議決権	-	99,819	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式4株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株式会社マキヤ	静岡県沼津市三枚橋字 竹の岬709番地の1	556,600	-	556,600	5.3
計	-	556,600	-	556,600	5.3

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,158,067	1,028,042
売掛金	506,110	371,028
商品	4,673,011	4,831,502
その他	439,630	368,424
貸倒引当金	385	284
流動資産合計	6,776,436	6,598,713
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,375,386	8,527,034
土地	7,080,148	7,080,148
その他(純額)	972,794	800,612
有形固定資産合計	16,428,329	16,407,795
無形固定資産		
投資その他の資産	760,312	860,554
敷金及び保証金		
敷金及び保証金	2,652,887	2,632,832
その他	1,369,604	1,397,297
貸倒引当金	15,013	15,011
投資その他の資産合計	4,007,478	4,015,118
固定資産合計	21,196,120	21,283,468
資産合計	27,972,556	27,882,182
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,839,926	4,422,502
短期借入金	2,853,936	3,498,957
未払法人税等	256,591	15,865
賞与引当金	160,713	150,444
ポイント引当金	106,844	101,879
その他	1,668,894	1,824,808
流動負債合計	9,886,906	10,014,457
固定負債		
社債	153,500	153,500
長期借入金	2,467,972	2,185,306
退職給付に係る負債	732,930	713,937
役員退職慰労引当金	82,779	85,499
資産除去債務	453,432	461,716
その他	1,111,800	1,095,452
固定負債合計	5,002,415	4,695,411
負債合計	14,889,321	14,709,868

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,198,310	1,198,310
資本剰余金	1,083,637	1,083,637
利益剰余金	10,897,566	10,932,183
自己株式	446,117	446,117
株主資本合計	12,733,396	12,768,013
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	376,976	429,920
退職給付に係る調整累計額	27,138	25,620
その他の包括利益累計額合計	349,837	404,300
純資産合計	13,083,234	13,172,313
負債純資産合計	27,972,556	27,882,182

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	13,559,831	13,515,506
売上原価	10,712,968	10,567,317
売上総利益	2,846,862	2,948,188
販売費及び一般管理費	2,718,002	2,859,086
営業利益	128,860	89,102
営業外収益		
受取利息	234	172
受取配当金	6,627	7,309
受取家賃	106,313	112,029
その他	37,043	26,858
営業外収益合計	150,218	146,370
営業外費用		
支払利息	19,128	16,118
不動産賃貸費用	58,257	60,948
その他	4,347	2,399
営業外費用合計	81,732	79,467
経常利益	197,345	156,005
税金等調整前四半期純利益	197,345	156,005
法人税、住民税及び事業税	77,799	19,523
法人税等調整額	8,499	42,406
法人税等合計	86,298	61,929
少数株主損益調整前四半期純利益	111,047	94,075
四半期純利益	111,047	94,075

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	111,047	94,075
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	66,655	52,944
退職給付に係る調整額	-	1,518
その他の包括利益合計	66,655	54,462
四半期包括利益	177,702	148,538
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	177,702	148,538
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が23,658千円減少し、利益剰余金が15,417千円増加しております。なお、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

当社は、大規模災害発生時に円滑な資金調達を可能とするため、震災対応型コミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく当四半期連結会計期間末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
貸出コミットメントラインの総額	2,000,000千円	2,000,000千円
借入実行残高	-千円	-千円
差引残高	2,000,000千円	2,000,000千円

コミットメントライン契約につきましては、各連結会計年度における連結貸借対照表の純資産の部の金額の一定の指標及び連結損益計算書の経常損益の状態を基準とする財務制限条項が付されております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費	255,310千円	244,331千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月8日 取締役会	普通株式	74,876	7.50	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月9日 取締役会	普通株式	74,876	7.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
単一の製品及びサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。
2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)
該当事項はありません。
3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報
単一の製品及びサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。
2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)
該当事項はありません。
3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	11円12銭	9円42銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	111,047	94,075
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	111,047	94,075
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,983	9,983

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年5月9日開催の取締役会において、平成26年3月31日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	74,876千円
1株当たりの金額	7円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成26年6月30日

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年8月8日

株式会社マキヤ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 恒 弘 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 下 和 俊 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マキヤの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マキヤ及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。